

村上選手と芦川選手が金メダル

世界体操で女子が活躍

体操の世界選手権は10月18日から24日まで北九州市で行われ、村上茉愛選手が種目別のゆかで、芦川うらら選手が平均台でそれぞれ金メダルに輝き、日本の女子が活躍した。夏の東京五輪のゆかで銅メダルを獲得した村上選手は、この大会でも思い切りのいい演技を見せ、2017年以来2度目の金メダルを手にした。平均台でも3位に入り、持てる力を出し切った。試合後の閉会式で「私はきょうで引退します」と観客に向けて発表し、25歳で競技生活に別れを告げた。



種目別決勝、ゆかの演技で太技「シリバス」を決める村上選手(代表撮影)



種目別決勝、平均台で優勝した芦川選手の演技(代表撮影)

18歳の芦川選手は一つのミスが大きく得点に影響する平均台で丁寧な技をこなし、ただ一人の14点台をマーク。日本女子史上3人目の金メダリストとなり、「今大会ではメダルを目指していた。目標がかなってうれしい」と喜びを素直に表した。

男子では、東京五輪の個人総合と鉄棒で金メダルだった橋本大輝選手が、この大会では優勝には届かず、どちらも2位だった。五輪と世界選手権で偉大な実績を残してきた内村航平選手は鉄棒で6位に終わった。米倉英信選手が跳馬で、萱和磨選手があん馬で、南一輝選手がゆかで、いずれも2位となった。

岡沢選手と坪井選手が日本選手初の優勝

ボクシング世界選手権

5日にセルビアのベオグラードで行われたアマチュアボクシング男子の世界選手権で、ウェルター級の岡沢セオン選手とバンタム級の坪井智也選手がともに初優勝した。日本選手が世界選手権で優勝したのは史上初めて。

決勝で米国選手に3-2で判定勝ちした岡沢選手は、ガナ出身の父と日本人の母を持つ。「厳しい試合でなかなか突破口を開けず難しかった。自分のボクシングを信じてやりきった」と喜んだ。

カザフスタン選手に5-0で判定勝ちした坪井選手は「あまり実感がないが、たくさんの方が連日応援してくれておかげでいい成績を残せたと思う。素直にうれしい」と話した。



ボクシング世界選手権でウェルター級を制した岡沢選手(右)



ボクシング世界選手権でバンタム級を制した坪井選手(左)

宇野選手と坂本選手が優勝

NHK杯フィギュア

フィギュアスケートのグランプリ(GP)シリーズ第4戦、NHK杯は12、13の両日、東京都の国立代々木競技場で行われ、シングル男子は宇野昌磨選手が、同女子は坂本花織選手がそれぞれ優勝し、ともにシリーズ成績上位6人が出場できるGPファイナル(12月、大阪府門真市)への進出を決めた。



女子フリーで演技する坂本選手

度目の優勝。宇野選手は「うぬぼれず、もっと上を目指して走り続けたい」とGPファイナルでの優勝を誓った。

SPで1位の坂本選手は、フリーでも完璧な演技で得点を積み上げ2連覇。「まだまだ伸びしろはある」と本人が言うように、今後は3回転半ジャンプなどの大技にも挑戦し、さらに高得点を目指す。



男子フリーで演技する宇野選手

ペアは三浦璃来選手、木原龍一選手組がGPシリーズ第1戦の2位に続いて3位となり、再び表彰台に立った。アイスダンスの村元哉中選手、高橋大輔選手組は6位だった。

過去の名シーンを振り返ります



2004年11月

田臥選手、日本人で初めてNBAでプレー

2004年11月3日は、当時24歳の田臥勇太選手が日本人として初めて米プロバスケットボール協会(NBA)の試合に出場した記念すべき日だ。

巧みなドリブルと素早い動きが持ち味の田臥選手は、フェニックス・サンズの開幕メンバーとして、本拠地のフェニックスで行われたシーズン開幕戦で「日本人初のNBAプレーヤー」と紹介され、華々しくコートに登場した。



リーグ、競り合う千葉の富樫勇樹選手(手前)と宇都宮の田臥選手(代表撮影)



田臥選手(左)がNBAデビュー。後半の第4クォーターに登場し、10分間のプレーで7得点を挙げた

バスケットボールは米国が発祥の地。NBAは1946年に創設され、現在のチーム数は30。1チームの選手がわずか12人のため、世界のプロスポーツで最も狭き門だといわれている。